

## 「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」放送原稿〈12月12日（金）放送分〉

### テーマ「奄美の民話や昔話」

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様、おはようございます。鹿児島県立奄美図書館です。今日は、毎月第2金曜日にお届けする、「奄美の民話や昔話」シリーズの第9回、徳之島の昔話「長者と貧者」です。

昔、ある村に長者と貧者が隣り合わせで暮らしていました。長者の妻はごく普通の女性でしたが、貧者の妻は島一番の美女でした。

ある晩のこと、長者と貧者は仲良く酒を飲みながら、お互いの妻を交換してみてもいいかなどと、とりとめのない雑談にふけていました。

貧者は長者にどんなことを言われても、酒の席での冗談だと思って、軽く受け流していましたが、そのうち、長者は本気になっていきました。やがて長者は、「君の妻のような島一番の美女を妻にすることができたら、私は他に何もいらぬ。どうだい、明日にでも君の家に蔵を一つ建てて、米俵を蔵一杯に詰め込んでやるから、妻を交換してくれないか。」と言いました。貧者は困りましたが、お互いの妻を呼んで、意見を聞いてみることにしました。すると両方の妻は、「私たちは、旦那様方のご希望であれば、どんなことでもいたします。」と答えました。貧者は予想外の返事を聞いてとても落胆しました。

翌日、長者は貧者の家に蔵を一つ建て、米俵を蔵一杯に詰め込むと、さっさと美人妻を連れて行ってしまいました。そして、貧者の家には普通の妻がやって来ました。貧者は仕方なく普通の妻と暮らすことになりました。

何か月か過ぎた日のことです。貧者は、「二、三日旅に出るから、留守番を頼む。」と妻に言い残し、家を出ました。貧者は遙か彼方の山々を越え、さらに山奥に入って行きました。既に日は暮れ、貧者はすっかり、やけくそになっていました。「道の真ん中に寝転んではいけない」という先祖からの言葉を思い出しながらも、あえて貧者は道の真ん中に寝転ぶのでした。しかし、その夜は特に変わったことは何も起こりませんでした。

そして、二日目の真夜中のことです。貧者は野犬の群れが自分の枕元を歩いていることに気付きました。貧者は、野犬に喰い殺されるのを待っていましたが、野犬たちは見向きもしませんでした。貧者は我慢できなくなって、一番後ろから来た野犬の尻尾を、力任せに引っ張りました。するとその犬は大きく叫び、一斉に仲間の犬たちが振り向きましました。犬たちは唸り声を上げ、今にも貧者に襲いかかろうとしていました。

突然その時、竹を杖にした白髪の老人が貧者の目の前に姿を現しました。そして犬たちを追い払うと、「何故そのような行動をするのか理由を述べなさい。」と貧者に言いました。貧者は、「実は…、私が貧乏だったばかりに、島一番の美人だった自分の妻と長者の妻を交換してしまったのです。それから、つくづく世の中が嫌になり、いっそのこと犬に喰い殺されようとしているのです…」と答えました。事情を知った老人は、「愚か者が！自分勝手に勘違いをして、大切な命を捨てようとするとは…。夫が留守の時に、妻

たちがどのようにしているのか、これを自分の眼に付けて、よく覗いてみるがよい。」と貧者に三本の犬のまつげを渡しました。

老人の言葉で死ぬことを考え直した貧者は、村に帰り着き、言われた通りに犬のまつげを自分の眼に付け、妻たちの様子を物陰から窺いました。すると、喜んで長者の家に行った美人妻は、囲炉裏ばたで長ギセルを啜えたまま居眠りをしていました。しかも、鶏が家の中を遊び場にしているのにも全く気付いていない様子でした。貧者は、「やはり、女性は顔だけでは判断できないものだ…。」とつぶやきながら、今度は自分の家を覗いてみました。すると、普通の妻は赤いタスキを両肩に掛け、竹籠一杯に握り飯を握ったり、大きな桶に味噌汁を汲み出したりしていました。それはどうやら、居なくなった夫を探し出すために雇った村人たちへの食事のようでした。それぞれの妻の様子を知った貧者は、わざと咳払いをしながら自分の家に帰ってきました。妻も村人たちもみんなが、貧者が無事に帰ってきたことを喜び合いました。貧者はとても感激し、「一家の富裕は妻に付いて回る」という先祖の言葉を噛み締めました。

それ以来、貧者と普通の妻は深く打ち解け、力を合わせてよく働くようになりました。やがて、貯えも増え、いつの間にか七つの蔵を建てるほどのお金持ちになりました。

それにひきかえ、かつての長者は美人妻の浪費がもとで、次第に落ちぶれ、いつの間にか貧乏になってしまいました。

その後、かつての長者から、お互いの妻を元に戻そうと申し込まれましたが、かつての貧者は、もちろんきっぱりと断ったということです。

さて今回のお話はいかがでしたか。美しいけれど浪費ばかりする妻か、普通だけれど夫に献身的な妻か、世の男性ならばどちらを選ぶでしょうか。昔、「亭主元気で、留守がいい」というCMがありましたが、夫がいない時こそ、妻の本性が明らかになるのでしょうか。昔も今も夫婦にまつわる話は尽きませんが、深い相互理解と協力が夫婦円満、家庭繁栄につながることは間違いないのかも知れません。

このように奄美図書館には、郷土に伝わる昔話を紹介した本がたくさんあります。ぜひ図書館にいらして、いろいろな本を手にとってほしいと思います。職員一同、皆様のご来館を心よりお待ちしております。以上、鹿児島県立奄美図書館でした。